

# 平成27年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

## 1 結果のポイント

- ・小学校国語では、国語A・国語Bともに正答率は全国平均を上回った。

正答率	小学校国語	
	国語A（知識）	国語B（活用）
国東市	72.1	67.3
大分県	71.5	66.7
全国	70.0	65.4

### 領域別正答率

分類	領域	国東市	大分県	全国
国語A	話すこと・聞くこと	52.6	57.1	53.0
	書くこと	83.7	85.6	86.0
	読むこと	55.1	55.2	55.2
	伝統的な国語文化と 国語の特質に関する事項	81.0	79.0	77.2
国語B	話すこと・聞くこと			
	書くこと	63.1	62.7	61.1
	読むこと	70.8	69.6	68.1
	伝統的な国語文化と 国語の特質に関する事項			

※全国平均に達していない項目に網かけ

- ・国語Aでは、「伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項」は全国平均を上回った。その他については、「話すこと・聞くこと」「読むこと」はほぼ全国平均と同程度である。
- ・国語Bでは、「書くこと」「読むこと」のみの出題であったが、いずれも全国平均を上回った。

## 2 課題が見られた問題と指導の改善事項

### <国語A（主として知識）>

#### (1) 話すこと・聞くこと (3)

（出題のねらい：話の内容に対する聞き方を工夫することができるかどうかをみる。）

○聞き方の説明として適切なものを選択する。

（国東市 52.6%・全国 53.0%）

- ・「話すこと・聞くこと」領域からはこの1問だけであった。本問は、代表委員会に出された提案を聞くという場面設定であり、A・B・Cそれぞれの聞き方について解答するものであった。完答しなければならず、いずれか1つでも判断を誤ると正答とはならないので、全国でも正答率が5割程度であった。
- ・解答類型からは、「提案の内容と自分たちの様子を重ね合わせる聞き方」に課題が見られた。
- ・指導にあたっては、必要に応じてメモを取りながら整理して聞き、その内容について、自分の考えと比べて共通点や相違点を分類したり、関連して考えたことなどを整理したりすることによって、相手の目的や意図を捉えつつ、自分の考えをまとめることができるようにしていきたい。例えば、高学年では、提案スピーチについて、提案の理由に着目して聞く、提案の内容と自分たちの様子とを重ね合わせて聞く、提案の効果や妥当性を判断しながら聞くなどの「聞き方のポイント」を意識させながら聞く機会を繰り返し設け、考えたことをまとめることができるように指導することが考えられる。

## (2) 書くこと (4)

(出題のねらい：具体的な事例を挙げて説明する文章を書くことができるかどうかをみる。)

○説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する。

(国東市 83.7%・全国 86.0%)

- ・「書くこと」領域からはこの1問だけであった。解答類型を見ると、誤答は選択肢の文章をうまく捉えられなかったことが要因として考えられる。「○いろいろな具体例→×複数の事柄に共通する点」「○図(イラスト)→×表やグラフ」慌てず正確に選択肢を吟味できるようにしたい。
- ・指導にあたっては、伝えたいことを相手に分かりやすく説明するためには、伝えたいことの内容を明確にし、その内容に合った具体的な事例を挙げて書くことが効果的であると理解できるようにしたい。具体的には、伝えたいことを説明する文章について、具体的な事例を挙げて書いたものと挙げないで書いたものを提示し、読み比べる学習を行うことが考えられる。比べることで、児童に具体的な事例を挙げて書いた方が、伝えたいことを相手にわかりやすく説明することができることを実感させる。また、「例えば」「～などがそれにあたる」「～を例にあげて説明する」などの表現を例示して、わかりやすい説明の仕方を指導することも大切である。

## (3) 読むこと (5)

(出題のねらい：新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えることができるかどうかをみる。)

①コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する。(5 一)

(国東市 58.9%・全国 59.5%)

- ・新聞のコラムが取り上げられたのは今回が初めてである。本問の答えは2つあり完答しなければならない。設問中の「読書体験」という言葉をもとに、コラム中の「子どものころ」「再び読んだ」の言葉に着目する必要がある。解答類型を見ると、いずれか1つのみ正答が26%、2つとも誤答が15%ほどであった。
- ・「言葉の意味をしっかりと捉える」「ある言葉を他の言葉で言い換える」ような言語活動が必要である。

②コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く。(5 二)

(国東市 16.3%・全国 19.8%)

- ・本問は「引用」についての出題であった。「引用」とは、本や文章の一節や文、語句などを引いてくることであるという理解に課題があり、指導の充実が求められる。解答類型を見ると、「引用部分に着目できているが、かぎ(「」)の前から書き抜いている」「かぎ(「」)に着目できているが便宜上のもので本の題名部分などである」といった惜しい誤答もあった。いずれも必要性や効果を考えた上で引用している言葉を判断することができなかったものと考えられる。
- ・指導にあたっては、「引用」の意味や仕方だけでなく、引用したことについて、児童が自分の思いや考えを書くことなども指導することが必要である。調べ学習や作文指導などの際に「自分の考えの説得力を高めたい」という目的意識や必要性を十分にもてる言語活動を位置付け、課題解決の過程において実際に自分で使うことができるよう指導することが大切である。また同時に、著作権の尊重についてもふれていく。
- ・新聞のコラムは、客観的な事実を伝える報道記事とは異なる特徴をもつ。しかし、様々な表現の工夫があり、「読むこと」だけでなく「書くこと」にもつながる教材でもある。指導にあたっては、例えば、実際の新聞の中からコラムを集めて多読し、どのような話題が取り上げられているのか、それに対して筆者がどのような考えをもっているのかを比べ読みするような指導が考えられる。

## (4) 国語の特質に関する事項について

①漢字を書く。(1ニ1)「シャワーをあびる」

(国東市 56.9%・全国 58.4%)

- ・「浴びる」と解答・・・・・・・・・・ 56.9%○
- ・上記以外の解答・・・・・・・・・・ 27.8%
- ・無解答・・・・・・・・・・ 15.3%

・漢字の学習指導にあたっては、既習の漢字を意図的に復習する等、家庭学習も含め計画的に繰り返し指導する必要がある。また、漢字の持つ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義語に注意して使ったりするように指導することも大切である。

・漢字を習得し語彙を広げるためには、国語事典や漢字事典を日常的に利用して調べる習慣をつけることも

重要である。国語科の学習以外でも、必要な時に辞書を利用できるような言語環境を作っておくことが大切である。

- ・設問**2**は、主語・述語の関係を捉える問いが2問出題されたが、いずれも全国平均を上回った。主語と述語は、文の骨格を成し、明瞭な文を書く上で最も基礎となるものである。「何が(は)～どうした」「何が(は)～何だ」等の主語・述語の関係は、文章中でしっかりと捉えられるように、発達段階をふまえて低学年のうちから繰り返し指導しておきたい。

## <国語B(主として活用)>

### (1) 書くこと (1)

(出題のねらい：目的や意図に応じ、記事に見出しを付けることができるかどうかをみる。)

- 見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する。(1 二)

(国東市 68.4%・全国 70.8%)

- ・本設問は、新聞委員会で学校新聞を書くという場面設定の中で、読み手の関心を引くような見出しを付けるというものであった。特にここでは、書き手が狙おうとする効果と表現の仕方を合わせて捉えることが求められていた。誤答は、正答以外の選択肢も見出しの付け方としては成立しているため、【実際の大見出し】に合うものと考え合わせることができなかつたものと考えられる。
- ・指導にあたっては、同じ題材を取り扱った様々な記事を集め、それぞれの見出しを比べるなどして、それらの効果について話し合うような活動が考えられる。この時、語句の反復、誇張、倒置、呼びかけなど、見出しの様々な表現の仕方にもふれておきたい。さらに、書き手の意図を推論しながら、自分なりに考えた見出しを発表し合い、互いの感想や意見を交流するような活動も効果的である。

(出題のねらい：目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことができるかどうかをみる。)

- 【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く。(1 三)

(国東市 34.0%・全国 34.7%)

- ・本設問は、インタビューの様子を参考にして複数の条件に合わせて記事を書くものであった。正答率は全国と同程度であるが高くない、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題があることがわかった。1番多かった誤答は、2つの条件のうち1つのみの解答であり、複数の情報を的確に関係付けてまとめることができていなかった。
- ・指導にあたっては、取材した内容を新聞記事として書く際、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じ、伝えたい内容が十分に伝わるように、取材した複数の内容を整理して書かせることが必要である。具体的には、読み手に伝えたいことの内容を明確にした上で、自分で調べた内容や、関係者に取材した事柄の中から取捨選択し、伝えたいことが読み手に伝わるように、整理して記事を書く指導が考えられる。

### (2) 読むこと (2)

(出題のねらい：目的に応じ、中心となる語や文を捉えることができるかどうかをみる。)

- 〔ア〕に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く。(2-ア)

(国東市 74.2%・全国 75.5%)

- ・今回初めて文章と図を関係付けて読むことが取り上げられた。その前段階として、中心となる語や文を捉えることができるかどうかをみる問いであった。誤答の理由としては、本文中の冒頭に解答部分が出てくるのだが、「〇〇とは、～のことをいう」「～のことを、〇〇という」というちょっとした言い方の違いをうまく捉えることができなかった、もしくは「選択肢」の意味を的確に捉えることができなかったものと考えられる。
- ・説明された内容を的確に理解するためには、文章の内容や筆者の考えの中心となる語や文を捉えることが重要である。指導にあたっては、中心となる語に着目した上で、その語を含む文全体の意味を的確に理解させる活動が必要である。また、その文の内容が事実であるのか、感想や意見であるのかなどを、区別して捉えることができるように指導する。その際、指示語や接続語、文末表現に注意することが大切である。

## 3 指導の改善のポイント(全体をとおして)

### (1) 単元を貫く言語活動を設定した授業づくり

- ・国語科は付きたい力をただ教えるのではなく、言語活動を通して指導事項を指導し、付きたい力を付けていく教科である。そのため、基礎基本の積み上げだけでは活用する力は高まらない。今後とも、単元を貫く言語活動を設定した授業実践の一層の充実が必要である。
- ・単元を構想する際、付きたい力とそれにふさわしい言語活動、教材はどのようなものかを適切に判断することが求められる。そのために、
  - ①マトリクス型の年間指導計画を作成し教材と指導事項を確認すること
  - ②学習指導要領の言語活動例の確認をすることの2点については年度が始まるまでに行っておく必要がある。
- ・「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」を参考にすることも非常に有効である。

### (2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

- ・必要な情報を素早く見つける読み方や、必要な部分のみを詳細に分析する読み方等を経験させるような指導が大切である。
- ・目的に応じた読み方を身につけさせるために、新聞、記録文、リーフレット、パンフレット、説明書等、多様な資料を扱うような活動の充実を図ることが求められる。
- ・国語科だけでなく、朝読書や他教科・領域での学習などを含め、年間を見通した計画的な図書館の利活用を推進していくことが大切である。

### (3) 「めあて」の設定や指導にいかすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- ・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準「B 概ね満足できる状況」を設定する。そして、この具体的な評価基準から本時のめあてを設定していくことが求められる。
- ・また、評価規準に基づき、「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。

### (4) 国語科授業で取り組むべきこと

- ・様々な言語活動や場面を利用して、記述する力を高める。知識の定着と活用力の育成には「記述する」ことが不可欠である。記述の指導は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域1事項に係る様々な活動を効果的に関連させることが重要である。また、条件や目的、字数や時間等に応じて書く力もつけていかなければならない。
- ・考えを深めたり広げたりする「交流」の場面を単元の中に効果的に位置付ける。
  - 例 ・文章を下学年の人にわかるように説明する。
  - ・書かれていることを図や表にまとめて、それを用いて人に説明する。
  - ・多くの友だちから多様な考えを聞き、自分の考えに生かす。
- ・複数の資料を比べて読んだり、複数の条件をふまえて書いたりする問題が出題されるようになってきている。まずは短い文章から「比べて読む」学習を積み重ねていきたい。
- ・学習用語の確実な定着を重視する。教科書の巻頭・巻末等にまとめられている学習用語は、その学年で確実に指導することが大切で、一度学習した用語は授業で使う。指導者があいまいな言葉を使わない。

### (5) 学校全体で取り組むべきこと

- ・漢字や語句、文法、表現技法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えたり、国語科だけでなく各教科のノートや家庭学習等、様々な場面で指導したりすることが望まれる。
- ・全校一斉読書や各教科及び領域において学校図書館を利活用していく。また、学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる（例 各新聞社から配信されているワークシートを短時間で行う等）。そのために、国語科だけでなく、各教科や領域において、図書館の利活用の推進をしなければならない。
- ・「国語科データベース」や県「フォローアップシート」、くにさき地区研作成「フォローアップシート」等を効果的に活用する。